

5年国語「千年の釘にいどむ」

授業者 横田 ひさき

研究内容との関連

本校は「主体的・協働的な学習を通して、学びの質を高め合う子どもの育成」という主題のもとで研究を進めている。本単元では、その実現に向けて、「ICTを効果的に活用した教え合い・学び合う協働学習」を次のように計画している。

- 本を薦める学習の前に、NHK放送番組「お伝と伝じろう」の「言葉が人を引きつける」を視聴し、聞き手に訴える効果的な表現の仕方を学び、そのコツをつかませる。そして、本の帯作りにおいても、そのコツを生かして表現力を高める。
- 本時では、ホワイトボードを活用して、構成型コミュニケーションを大切にした教え合いや学び合いをさせたい。自分の考えが変化したり、確かなものになったりする話し合い活動を通して、全体の学びの質を高めていきたい。
- タブレットPCを1人1台活用することにより、必要に応じて修正しながら短時間で本の帯作りができる。そのことにより、児童が意欲的に学習に取り組み、協働学習の時間も十分確保できると考える。

授業のようす



- 話し合う場面では、ホワイトボードを利用する。自分の考えはミニホワイトボードに書き、グループでの話し合いは、大きなホワイトボードに書きながら進めている。

- TPC を使って作った本の帯を紹介し、みんなでシェアリングしていく。短時間で作品作りができるのも、ICT のよさである。



学習指導案（展開）

本時の学習

（１）目標

①学習者の活動目標

「千年の釘にいとむ」をすすめるキャッチコピーを作ろう。

②指導目標

作品の魅力や推薦理由を友達と交流することにより、作品の見方を広げたり深めたりして「千年の釘にいとむ」のキャッチコピーを作ることができるようにする。

（２）展開

教師の主な発問 めあて ・教師の支援 ○ICT の活用

学 習 活 動	教 師 の 支 援	I C T
1 前時の学習を振り返り、本時の学習の見通しを持つ。	<p>「千年の釘にいとむ」の本の帯のどの部分を作りますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時を振り返り、自分たちが集めた本の帯を紹介しながらキャッチコピーの意味や表現の効果などを意識させる。 <p>「千年の釘にいとむ」のキャッチコピーを作ろう。</p>	
2 「千年の釘にいとむ」を読んで、その魅力と推薦理由を交流する。	<p>印象に残った場面や心に残った言葉などをもとにして「千年の釘にいとむ」のみ力やすいせん理由を交流しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ホワイトボードを活用してみ力やすいせん理由を交流することで、お互いの考えを深めたり広げたりできるようにする。 伝えたいことを端的に表す言葉や相手を引きつける言葉について考えさせることで、自分の考えを明確にしてキャッチコピー作りができるようにする。 	WB
3 「千年の釘にいとむ」を薦めるキャッチコピーを作る。 ・作る→発表	<p>「千年の釘にいとむ」のキャッチコピーを作ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉や文章表現の工夫ができるように、交流した内容や「キャッチコピーのコツ」の手引きを参考にさせる。 <p>○タブレット PC を活用して作品を編集することにより、考えながら文章を推敲することが容易にできるようにする。</p>	TPC (スマイルワポ) TPC
4 学習のまとめをする。	<p>今日の学習の振り返りをしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の学習の気づきや自分の考えの変化を振り返ることができるよう「振り返り記録カード」を用意する。 	

（３）評価および指導の手だて

「十分満足できる」と判断される状況	<ul style="list-style-type: none"> 印象に残った場面や心に残った言葉などをもとに、本の魅力や推薦理由を交流したことを生かして、自分の考えを広げたり深めたりしながら、キャッチコピーを作っている。
「おおむね満足できる状況」を実現するための指導	<ul style="list-style-type: none"> キャッチコピーを作ることができるように、ホワイトボードで交流した言葉や「キャッチコピーのコツ」を参考に、自分の伝えたいことを確認できるようにする。

2年算数「かけ算(2)」

授業者 北尾 教子

研究内容との関連

本校では、「ICTの効果的活用を通して、豊かな言語活動のなかで、主体的に学習に取り組む子どもの育成」という主題のもと研究を進めている。

本単元では、日常生活と算数とを結びつける動機付けとして、放送番組を視聴する。また、九九の習得の学習は一斉指導で行い、活用場面においては、児童相互のコミュニケーションを大切にしたいペア学習を取り入れている。そして、互いに問題解決の方法を考え説明する場面では、ホワイトボードやタブレット PC を使った学びの場を設定することにした。児童が目的意識をもって算数に主体的に取り組み、習得した知識や技能を、実際の場面で活用するいわゆる「算数的活動」を充実させるためにも、放送番組視聴と協働学習の充実に取り組みたいと考えている。

ホワイトボードは、間違ってもすぐに消すことができるという利点があるため、気軽に自分の考えや意見を書いたりまとめたりすることができる。また、発表が得意な子も苦手な子もホワイトボードに意見を書き、見せ合うことで自分たちの意見を伝え合うことができる。算数科においても、ホワイトボードを効果的に活用することで、言語活動を活性化できると考えた。

また、タブレット PC は、これまでとは違う新しい機器ということで、児童が使うことの楽しさを感じ、主体的に学習に取り組むことができる道具である。画面上で、数図ブロックの移動や並び替えなどの思考過程が見え、学習途中でも保存できるといった利点がある。ペア学習では、一つの画面を二人で話し合いながら操作し考えをまとめた後、みんなに分かりやすく発表するようにしている。タブレット PC をペアで使うことで、自然に教え合う姿も見られるようになってきており、こうした教え合いが個々の学力差やスキルの差を埋めるなど、私が意図していた以上の成果も表れつつある。

これらの教具や機器を効果的に活用した協働的な学習を展開することは、「算数的活動」の充実につながり、児童自らが算数を学ぶことの楽しさや意義を実感できるのではないかと考え、本研究を進めることにした。

授業のようす



・「さんすう犬ワン」を試聴する子どもたち

- ・TPC を使って、画面の中の絵を動かして、かけ算の式を導き出そうとする子どもたち。2年生でも、TPC なら簡単に操作できる。



学習指導案（展開）

本時の学習

(1) 目標

ものの数を求めるとき、様々な方法でかけ算を使えるように工夫し、そのよさに気づき、活用することができる。

(2) 展開

教師の主な発問 めあて ・教師の支援 ○ ICT の活用

学習活動	教師の支援	ICT
1 放送番組「さんすう犬ワン」を視聴し、本時のめあてを知る。	<input type="checkbox"/> みんなの周りでも、いろいろな場面でかけ算が使われていましたね。	放送番組
2 本時の課題をペアで選び、求め方を考える。 (ペア学習)	○ 放送番組から、四角い形で考えるとかけ算が使えることを振り返り、本時の見通しがもてるようにする。 <input type="checkbox"/> みのまわりから、かけ算のしきであらわせるものをさがし、くふうしてもとめよう。	TPC
3 工夫した求め方を発表する。	<input type="checkbox"/> 工夫した求め方を、発表しましょう。	TPC
4 本時のまとめをする。	○タブレット PC の数図ブロックを、かけ算が使えるように操作させる。 ・自分たちの考え方を、ホワイトボードに書いて説明できるようにする。	TPC
	○タブレット PC の数図ブロックを移動したり、マーカーで囲んだりしながら、分かりやすく発表させる。 ・自分たちの考えと比べながら友達の求め方が聞けるよう声かけをする。 ・学習したことを振り返り、今後も生活の中でかけ算を使っていこうとする意欲をもたせる。	

(3) 評価および指導の手だて

算数への関心・意欲・態度

「十分満足できる」と判断される状況	身の周りにあるかけ算の場面に興味を持ち、進んで考えようとしている。また、かけ算を活用するよさに気づき、進んで使おうとしている。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	放送番組を思い出させ、かけ算が活用できるように、ブロックを移動させたり、四角い形を作らせたりする。

数学的な考え方

「十分満足できる」と判断される状況	かけ算を使って数を求め、理由をつけて説明することができる。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	かけ算の式に表わすために、四角い形に移動できたブロックに、何のいくつ分になるのかをマーカーで囲ませてから、説明させるようにする。

6年 総合「メールやLINEを賢く使おう」 授業者 市岡 美知枝

研究内容との関連

情報活用能力の個人差への対応の工夫としては、協働学習や体験的な学びの中で、意見を交流し合いながら、新しい考えや方法に気づき、互いに高め合うことができるようにしていきたい。また、子ども自ら主体的に情報モラルに取り組めるようにするために、ケーススタディを取り入れる。このような体験的・実践的な学習活動を通して、困難な問題に対しても、自分なりの対処法で解決に導くことができる力を身につけさせたいと考えている。

また、メールやLINEについては、既に利用している子もいれば、全く知らない子もいる。情報モラル学習では、ツールの特性などの科学的理解の指導が必須であることから、事前にメールやLINEについて体験的に学ぶ学習をしている。

なお、指導にあたっては、児童の思考がスムーズに流れるよう、ホワイトボードを活用することで、話し合い活動を活性化させ、自分の考えを伝えるだけの伝達型コミュニケーションではなく、相手の意見を聞いて自分の考えに生かすといった構成型コミュニケーションが図られるよう配慮したい。

授業のようす



- ・「いじめをノックアウト」を試聴する子どもたち。ケーススタディでは、番組のストーリー中の一場面をとらえたクリップを利用し、「自分ならどうするのか」といったロールプレイが展開される。

- ・ケーススタディとセットで行われたホワイトボードを使った話し合い活動。自分は、どうすべきなのかについて話し合い、構成型コミュニケーションで学びの質を高めていく。



学習指導案（展開）

本時の学習

(1) 目標

ネットワーク上のコミュニケーションのトラブル事例をもとに、互いの気持ちが伝わる適切なコミュニケーションの取り方を考える。

(2) 展開

教師の主な発問 めあて ・教師の支援 ○ICTの活用

学習活動	教師の支援	ICT
1 本時の学習について見通しをもつ。	メッセージのやり取りをして、気をつけることを考えよう。	
2 コミュニケーションアプリでのトラブル事例を見て、その原因について考える。	トラブルの原因について考えよう。 ・コミュニケーションアプリでのトラブル事例を見せ、どのやりとりでトラブルになってしまったのか、考えさせる。 ・やりとりをしたそれぞれの子どもの立場に立ち、互いの気持ちが伝わるような返信の仕方を考えさせる。	PC フラッシュカード 放送番組 いじめをストップ
3 トラブルが起きたとき、自分ならどうするか話し合う。	トラブルが起きたとき自分ならどうするか、話し合おう。 ・グループ内の意見交流が活性化するように、ホワイトボードを使わせる。 ・ネットワーク上のコミュニケーションとどのように関わっていくべきか、自分の問題として考えさせる。	ホワイトボード
4 本時の振り返りをする。	・今日の授業の感想を発表し合い、本時のまとめをする。	

(3) 評価および指導の手だて

「十分満足できる」と判断される状況	ネットワーク上のコミュニケーションの特性を理解し、適切なコミュニケーションを取ろうとしている。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	子どもたちにとって身近な事例を取り上げ、ワークシートに考えを書かせたり、互いに感想を伝え合ったりして、自分の意見が持てるようにする。

V 成果と課題 (○…成果, △…課題)

① 協働学習に期待する効果について

- 子どもたちのなかに、「教え合い、学び合い」が常態化しつつあり、今後も活用力（思考力・判断力・表現力）の向上が期待できる。なお、活用力の中でも、表現力育成効果が最も大きく、学び合う活動のなかでの思考力育成も十分期待できると考えられる。
- 主体的に学習に取り組む意欲や態度の向上については、学力が低位の子にとって特に有効であり、これまでの一斉指導では見逃されがちであった個々の小さなつまずきや、教師の指示・発問の不十分さまでも、子どもたち同士で補ってくれていることがわかった。

△ ICT を活用した協働学習において様々な効果が得られたものの、ICT 活用の効果と協働学習の効果、それぞれの取り組みがどのように作用したものであるのかを検証する必要があると思われる。

△ 協働学習の類型には、「発表や話し合い」「協働での意見整理」「協働制作」などの学習形態があるが、遠隔地や外部の学校・人材との交流授業などの「学校の壁を越えた学習」に関する研究はできなかった。※類型は、「学びのイノベーション実証研究報告書」によるもの

② アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善について

1) 「深い学び」の過程の実現

- 子どもたちが、みんなで協働して課題に向かい、答えを導く楽しさを感じつつある。

△ 話形を工夫して、自分の思考過程を説明するための個々の語彙力の育成が必要である。

△ 協働学習では、教師の発問・説明・指示・指導・支援の仕方が、学びの質に大きな影響を与える。授業のユニバーサルデザイン化（発問・説明・指示・指導・支援）への工夫を進める必要がある。

2) 「対話的な学び」の過程の実現

- 異なる意見や考えを、自分の考えの一部に取り込められる子は意外にも多い。

△ 協働学習におけるペア・グループでの話し合いが不得手な子もいる。その原因は、個々によって様々であり、こうした子どもたちへの対応が必要である。（ユニバーサルデザイン化の必要性）

3) 「主体的な学び」の過程の実現

△ 見通し（ゴールの明確化）、振り返り（次の問いを生む）を充実させるためには、ある程度の時間確保が必要となる。しかし、時間がかかりすぎると、中心となる学習活動に影響を与えることもあるので、時間短縮できる方法の確立が必要である。

③ 学校全体の教育の質の向上について

- 校務の情報化と授業改善を進めるなかで OJT が全校的に日常化しつつあり、教師の教え合い・学び合いは、学校改善に結びついている。
- 互いに教え合い、学び合う意識や態度形成にとって、学校の情報化は絶好の機会であると思われる。